

真崎地区 自治会だより

No.4

発行 平成23年9月25日
編集 真崎地区自治会
(企画・総務部会合同編集部会)
電話 ☎283-4477
真崎コミュニティセンター



第四回真崎古墳行灯まつり賑やかに開催される

8月27日(土)Vサインの雲にも祝福され、真崎古墳群及び真崎コミュニティセンターを舞台に第四回真崎古墳行灯まつりが真崎区自治会主催、まさき会共催、舟石川三区自治会・原子力機構荒谷台区自治会・地域の各種団体協賛及び真崎地区自治会後援で開催され、多くの方が参加されました。

古墳群の行灯は、村松小学校・照沼小学校・真崎区内の白方小学校の児童454名により児童それぞれの自由な発想で絵付けされたもので、家族で行灯を探し出し楽しんでいました。

また、模擬店をはじめ村松小ソーラン踊り・のど自慢大会・オカリナーの演奏やコーラス・盆踊りなどのイベントも盛りだくさんに行われ、締めくくりは恒例の抽選会で大いに盛り上がりました。

目次

- ・真崎古墳行灯まつり…………… 1
- ・各自治会長あいさつ…………… 2
- ・震災を振り返って…………… 3
- ・真崎地区社会福祉協議会…………… 4～5
- ・青少年育成東海村民会議村松支部… 6～7
- ・各自治会のトピックス…………… 8
- ・お知らせコーナ…………… 8

各自治会長あいさつ



真崎市自治会長 黒羽根 弘 一

3月11日の東日本大震災は、東海村にも大きな被害をもたらし被災された皆様に、あらためてお見舞い申し上げます。

また、日頃は自治会の事業推進に当たってご支援と、ご協力を頂いておりますことに感謝をいたしております。

今回の大震災は、私達に多くの課題と教訓を残しました。これらの課題解決に向けて災害につよい「安全で 安心して住めるまちづくり」を目指す視点から自治会連合会は、地区自治会からの意見等の集約を行い「防災及び災害支援等に関する要望書」を東海村長に提出しました。これらの要望が東海村の災害につよいまちづくりに生かされ住民と協働の中で進展することを期待しております。

本年度の真崎市自治会の事業も、集会所の改築による対応、大震災による事業の遅れ等、9月以降に集中する事が見込まれ一部事業の見直しが必要と考えております。

いずれにいたしましても今回の大震災を踏まえて、自分自身の力で身を守ることを含め、支え合い、助け合いの大切さを教訓として、自治会活動を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様方のご支援と、ご協力をお願いいたします。



原子力機構荒谷台区自治会長 小 泉 光 生

この度の東日本大震災で被災された皆様、また原子力災害に遭われておられる方々に、心よりお見舞い申し上げたいと思います。一日でも早い、被災地の復興ならびに、事態の収束を願っております。

すでに震災後6ヶ月たちました。そこかしこで「がんばれ日本」が叫ばれています。なでしこジャパンがワールドカップで優勝するといった明るいニュースもありました。自治会としては、イベントなどを通して、皆様の交流を深めるとともに、楽しく、元気なコミュニティ作りの助けができればと考えています。よろしく申し上げます。



舟石川三区自治会長 佐 藤 房 明

今年4月より舟石川三区自治会の会長に就任いたしました。

今日までの自治会並びに地区自治会運営にご支援とご協力を頂いております事を心から感謝申し上げます。舟石川三区自治会の運営に当たっては、鈴木前自治会長の運営方針を踏襲することを基本に、これまで運営してまいりましたが3月11日に発生した東日本大震災を考えた時、地域における防災活動の重要性を改めて認識をいたしております。現存する「防災・防犯委員会」のさらなる充実が望まれており、「安全・安心で住みやすい地域」創りの為、舟石川三区の皆様には、更なるご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが東日本大震災にて被災された皆様に本誌をお借りして改めてお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧を祈念いたしております。

震災を振り返って

～真崎地区自治会運営委員会(4/19)議事録抜粋～

3月11日の東日本大震災に伴い、混乱の中真崎コミュニティセンターが避難所に指定され、避難者の受け入れを開始した。

真崎地区自治会でも、行政・各単位自治会・民生委員・地域の各種団体・ボランティアなどと協力し、避難者及び被災者への対応を行った。

(1) 真崎地区自治会で取り組んだこと

- ・行政職員やボランティアと協力して、給水活動を行った。
 - ・地区内の使用可能な井戸を所有者の了解を得て地区内一般の方が利用できるようにした。
 - ・コミセンに来ることができたボランティアによる炊き出しを行った。
 - ・民生委員が避難された高齢者のケアとともに、自宅にいる高齢者の安否確認と飲料水・おにぎり等の配給を行った。
 - ・愛ネット対象の独居者を訪問し安否確認を行った。
- これらは年間計画に沿った行事を通して「地域力」が高められ、災害時には「お互い様」という共生の基本的考えが結果として現れた。



(2) 真崎地区自治会の日頃の活動で役に立ったこと

- ・防災訓練を行っていたこと、及び非常食、懐中電灯、ラジオ、携帯用トイレなどの展示を行っていたことは、いずれも役に立った。(安全・安心部会)
- ・近所の高齢者宅を訪問し安否確認を行ったり、炊き出しに協力するなど日頃の活動が役に立った。(福祉部会(地区社協))
- ・3月12日に予定していた「ワクワクFOODフェスティバル」は中止となったが、準備した食材は避難された方々への炊き出しに活用できた。(農・工・商業部会他)

(3) 今後の課題と思われること

- ・今回は比較的短期間で炊き出しを終えることができたが、もし長期にわたる場合はローテーションを組んで組織的に対処する必要がある。
- ・停電により電話(固定・携帯)が通じない状況においては、緊急連絡は、伝言によるしかなかった。情報の周知の仕方を工夫する必要がある。
- ・乳児用ミルクについて災害対策本部に要望したが、3日間程は配布されなかった。避難用品として、毛布や乳児用粉ミルクなど必需品を各自用意しておくことも必要。
- ・コミセンに避難される方は健常者が主であり、在宅の被災者への対応をどうするかが今後の課題である。常会(単位自治会)を通して安否確認をする体制づくりが望まれる。

(4) 行政に望むこと

- ・コミセンには避難所としての備蓄品や設備がないので、停電・断水時でも使用できる電源、水源、熱源、毛布、食料、トイレなど避難所としての備えが必要である。
- ・車椅子の方が1名避難されたが、避難者が多く対応が行渡らず、不自由な思いをされたと思う。車椅子でも利用しやすい設備を充実させた避難所が必要である。
- ・災害発生時行政が実施すること、自治会や地域で対応することといったルールが必要であったが、出来上がらないうちに震災を経験した。ルール化を図ることが必要。
- ・原発で事故があった場合、東海村民を受け入れてくれる自治体はあるのか、日頃から避難先となることを念頭に自治体交流を進める必要がある。

など、今後に備えるために示唆に富んだ意見交換が行われました。

※ 地域の皆様のご意見を伺うため、10月15日(土)「防災を考える会(3・11を振り返って)」を開催しますので奮ってご参加下さい。



真崎地区社会福祉協議会

平成23年度第1回総会を開催

H23.4.17

本年度の定期総会が46名の会員が参加し開催されました。会長挨拶・来賓挨拶の後、議事に入り「22年度事業報告・決算報告」と「23年度事業計画・収支予算（案）」について審議し原案通り承認、「会長・副会長選任議案」については4月7日の運営委員会において選出された原案どおり承認されました。



(新役員)

| | | | |
|---------|---------|-------|-------|
| 会 長 | ： 貝田 昭 | | |
| 副 会 長 | ： 大内 克 | 亀尾 裕 | |
| 事 務 局 | ： 野上 紀子 | 柏原 文夫 | 佐藤 幸子 |
| 総 務 部 会 | ： 野上 紀子 | 柏原 文夫 | |
| 支え合い部会 | ： 高野 久行 | 堀木欧一郎 | |
| ふれあい部会 | ： 井川 迪子 | 鈴木八重子 | |
| 保 健 部 会 | ： 町田 栄治 | 小田 陽子 | |

これからの地域福祉活動を考える会

H23.2.25

真崎地区社会福祉協議会も4年目に入り、活動の一つとして毎年開催している「これからの地域福祉活動を考える会」を、淑徳大学教授 稲垣美加子氏に講師をお願いし、平成23年2月25日にテーマ「今だからこそ“住民主体”“協働”を考える」で行いました。この研修会を行ってから、2週間も過ぎない、平成23年3月11日(金)に東日本大震災が発生しました。この時、一人一人が自分を考えて行動することが出来たでしょうか。住民が主体になり、自分のことを考えながらお互いに声を掛け合い、助け合いの精神をもって行動することがやがては“安全・安心の地域づくり”へと発展して行くことになるのではないのでしょうか。



ふれあい協力員研修交流会

H23.7.13



日頃、高齢者の交流事業や見守り活動・サロン活動など献身的に活動しているふれあい協力員55名が参加してバス2台で栃木県佐野市方面に向かう車中



は地区社協の課題などについて話し合い、また緑多いみかも山公園散策などしながら協力員同志の交流を深め、一日楽しく心身ともリフレッシュすることができました。

ふれあい協力員リーダー研修会

H23.6.11

地域住民主体のボランティアのため、できる範囲内での活動ですが日常的な声かけなどさりげない見守りについて、淑徳大学教授 稲垣美加子氏の講演を聞き、あらためて地域の絆の大切さ「皆で声をかけあう、助け合う、分かち合う、励まし合う」を実感しました。



支え合い部会

H23.4.1

真崎地区支え合い部会は、平成23年度より部会を3グループに分けて活動することになりました。

第1グループ：民生委員、ふれあい協力員リーダー、訪問グループ員が、高齢者への訪問等の援助を行い、定期的に連絡会を開く。

第2グループ：常会長が、近所の高齢者を見守る。

第3グループ：防犯パトロール員と緊急時の高齢者のサポートメンバーが、緊急時の対応を行う。



真崎区では、7月20日(水)平成23年度支え合いグループ第2回連絡会を開催し、各民生委員から地区の状況を聞いた後、各民生委員とそのパートナーとなるふれあい協力員リーダー・訪問グループ員に分かれて、今後の活動の方向性を検討しました。



ふれあい食事会(毎月第3水曜日)

真崎地区住民の皆様は一度や二度は耳にしたことばでしょう。毎月第三水曜日、利用者の方・地区社協の会員の方が、それぞれの場所に集まり、お互いが知り合いになり、集まることの楽しさを感じ、みんなで助け合いながら一日を過ごしています。体操・うた・食事・話し合い等々、時間がすぐに過ぎてしまいます。デマンド利用・家族の送迎・自便の足で等々元気に過ごすために、ぜひ参加してください。



サロン活動



今回は、ひまわりサロン(毎月第4月曜日、舟石川三区主体)を紹介します。

ひまわりの様に明るく笑顔いっぱいの仲間たちです。雨の日は合羽とシルバーカーで休むことなく話し合い・歌・簡単な健康体操等を楽しんでおります。

年2~3回は若い和楽会の方達と一緒に手造りの食事会、その美味しさに舌鼓をうちながら、五節句等昔話や「土用さぶろう」等と言葉を聞いては初耳と、また脳トレをしては大笑いとおもしろい雰囲気の中のサロンです。

今後の行事予定

○10月16日 福祉まつり

○10月27日 三世代交流会

○11月9日 長寿ふれあい敬老会

平成23年度定期総会



5月27日(金)、真崎コミュニティセンターにて、定期総会が開催されました。22年度の事業報告と決算報告、23年度の事業計画、予算、会則の一部改正が審議されました。

【23年度役員】

支 部 長：原田 正英

副 支 部 長：宮内 加一、森澤潤一郎、石井 淳一

家庭地域委員会：白石 保、大津 清

青少年委員会：遠藤 仁、飯田由美子

総務委員会：五来 忠義、小田 陽子

クリーン作戦

7月2日(土) 参加者総数186名

村松小学区通学路付近



朝早くから、たくさんの方に参加していただきました。おかげで、すっかりきれいになりましたね。これからもゴミのないきれいな街にしていきたいでしょう。



ご協力ありがとうございました

キックベースボール大会

(後援事業(子供会育成会主催))

6月18日(土) 学区内大会(村松小学校グラウンド)

優勝：つばめレッドスワローズ

準優勝：荒谷台フェニックス

3位：睦ファースト



今後の予定

10月1日(土) 釣り大会

12月10日(土) しめ飾り作り・餅つき大会
又は17日(土)



御礼とお願い

村民会議村松支部の事業につきまして日頃からご協力いただきましてありがとうございます。これらの事業は地区内のみなさまの一世帯300円の会費等で運営されています。会費は随時受付けておりますので、よろしくお願ひします。

窓口 真崎コミュニティセンター ☎283-4477

◆◆◆◆◆ 各自治会のトピックス ◆◆◆◆◆

「原子力機構荒谷台区自治会」荒谷台夏祭りを開催

去る7月23日(土)、荒谷台夏祭りを開催いたしました。開催に際し、真崎地区自治会から後押しをいただきました。昨年に引き続き、特別企画として「真崎コミセンの朝市」を開催していただきました。当日は、村長代理、真崎地区正副自治会長、顧問、そしてコミュニティセンター長、副センター長にお越し頂きました。

祭りは、子供神輿が公園まわりを1周したあと、祭りの開会宣言で始まりました。朝市、フランクフルトなどの出店



花火



スーパーボールすくい

や、スーパーボールすくいなどのイベントを行いました。そして、夜7時半、花火をもって無事終了いたしました。協力いただいた自治会員、子ども会の方々、村や機構、地域商店の皆さんにこの場をお借りして、お礼申し上げます。この祭りが、参加された皆さんの明日からの活力となり、また子ども達の良い思い出となれば幸いです。

お知らせコーナー

【真崎地区自治会】

- 安全・安心部会 10月15日(土) 防災を考える会(3・11を振り返って)
- 福祉部会 10月27日(木) 三世代交流会
- 11月9日(水) 長寿ふれあい敬老会
- 教育部会 10月1日(土) 釣り大会
- 12月10日(土) 又は12月17日(土) しめ飾り作り・餅つき大会
- 朝市開催(会場:真崎コミセン) 毎月第3水曜日

【村松小学校 砂川 斉校長】

- 村小まつり 11月5日(土)

【編集後記】

このたよりは、真崎地区自治会(村松小学校区)企画・総務部会ならびに単位自治会(真崎区・舟石川三区・原子力機構荒谷台区)、真崎地区社会福祉協議会及び青少年育成東海村民会議村松支部の合同で編集しました。

この度は、真崎地区自治会運営委員会で「震災を振り返って」と題し、村松小学校の地域内に生活する仲間が、安全・安心のまちづくりに向けて、現状と課題について認識を頂きたいとの思いで紙面構成に努めました。

私たちが、個人として出来る範囲、地域が共生するための範囲、村(行政)が実施すべき範囲をもう一度考えて、更なる意識の変化が求められる時期に来ていると思います。

皆様にとって充実した地域交流誌にしたいと考えておりますので、積極的な寄稿をお待ちしております。

【編集委員一同】

*このたよりは、村の地域づくり推進事業、真崎地区社会福祉協議会、青少年育成東海村民会議村松支部の補助金等によって発刊しました。